

町内小学生 3 名がドッジボール全国大会へ出場！

坂城町スポーツ少年団ドッジボールの団員の小林姫咲さん（村上小 5 年）、佐藤琉乙さん（南条小 5 年）、小宮山来実さん（坂城小 4 年）の 3 名が、12 月に滋賀県で開催された「第 11 回全日本女子総合ドッジボール選手権」に長野県代表として選抜され出場しました。

11 月 27 日（水）、役場に来庁した際には、「大きな声を出してチームに貢献したい」と小宮山さんが話すなど、3 人ともに大会への強い意気込みを話していました。



人権を尊重し豊かな福祉の心を育む町民集会 ～共に認め合い、共に支え合う社会をめざして～

12 月 7 日（土）、文化センターで「人権を尊重し豊かな福祉の心を育む町民集会～共に認め合い、共に支え合う社会をめざして～」を開催しました。

この集会は、一人ひとりが、共に認め合い支え合う人権感覚を養うとともに、福祉への理解を深め明るく住みよい人権・共生のまちづくりの実現を目指して毎年開催しています。



集会では、はじめに、村上小学校 4 年生が、人権の花運動の活動について発表しました。

「贈呈式」で 5 種類の花の種とプランターをもらったこと、その種をグループごと友だちと協力してポットに植え、水やりをして大切に育てたこと、そして、成長した花々を近所の障がい者支援施設の方々と一緒にプランターに植え替えて交流を深めたこと、終業式の日、みんなで育てた 5 種類の花と手紙をその障がい者施設の方々に渡したことを各グループが順番に発表し、この活動を通して、「ひとを思いやる気持ちがあった」と感想を述べていました。

続いて行われた記念公演では、劇団新制作座の「泥かぶら」が上演され、村上小学校の児童も出演しました。

物語は、醜い顔をしているため、「泥かぶら（泥まみれの大根）」とあだ名をつけられた女の子が、村のみんなに馬鹿にされ気持ちが荒む日々を送る中、ひとりの老法師と出会い、前向きに生きていくための 3 つの教えを授かり成長していくお話です。

最初は、教えの意味が分からず、悶々とした日々を過ごしていた「泥かぶら」ですが、ある日、偶然に助けた農夫から感謝の言葉をかけられたことをきっかけに、だんだんと自分の可能性や信じる力を育み、まわりの人や友情の大切さを知り、人の気



持ちを思いやり、共感できる前向きな気持ちに変わっていくことで自然と周りの人々からも愛されるようになっていきます。

第 2 幕で出演した児童は、「セリフとか練習はいっぱいした。本番は緊張したけど、舞台上に上がる前に劇団の人から優しく『大丈夫』と声を掛けてもらったので頑張れた。楽しかった。」と感想を話していました。

また、幕間の休憩時には、ロビーで福祉事業所による物販も行われ、多くの方が購入していました。

